

香川大学教育学部附属学校園の教育研究活動等に関する第3期中期目標

学部・研究科との緊密な連携の下に、高松・坂出の2地区にある附属学校園の強みと特色を活かした先導的な教育・研究活動を推進するとともに、地域の教育力向上に貢献する機能及び教育実習・研修機関としての機能を強化する。

- 大学教員と附属学校教員の共同研究を促進し、教育課程の開発や学習・指導方法についての先導的な教育・研究活動に取組み、その成果を実践的教員養成・研修に反映させる。
- 地域における基幹校的な役割を果たせるように、多様な子どもたちを受け入れながら、地域の教育課題に応える研究開発とその成果の還元を行う。
- 地域の教育力向上に貢献するため、附属学校園における現職教員研修の機会の提供、公立学校への研修講師の派遣、県内教育研究 団体の活性化支援等、地域の教育界・教育委員会との連携を生かした活動を行う。

I 本校の教育目標

学びをつくる子どもの育成

めざす子ども像



- ・自ら追求し、共に考えぬく子ども
- ・心の美しい、互いに思い合う子ども
- ・健康で、たくましい子ども

学級数12,児童数414名

子ども理解に立って

附属坂出小学校の職員として



- ・歴史と伝統を受け継ぎ、実践研究に全力を傾け、地域に貢献します
- ・大学、学部と連携し、教育実習等の使命を果たします
- ・附属坂出学園として、一貫した教育を推進します

校長1,副校長1,主幹教諭1,教諭16,非常勤講師4(複担1,少人数1,JTE1,ALT1),支援員1,事務4,用務1,SC1 計30名

II 特色ある教育活動(7つのプラン)

1 研究活動の充実

- ①地域の教育課題に応える分かりやすい実践研究の推進
 - ・本校のこれまでの成果を生かし、テーマに沿った分かりやすい実践研究を発信する。
 - ・日々の授業・学級経営を大切に、子どもを知り尽くし、子どもの学びの姿を通して提案する。
 - ・日頃から授業技術、子ども理解の手法等を交流し合う。
 - ・**発達支援**,ユニバーサルデザインの教育を進める。(特別支援学校,「すばる」の知を活用する)
- ②研究成果の発表と活用状況の把握
 - ・日常の研究授業・研究集会を公開したり、複数教科の授業を公開する日を設けたりして(算数,理科),県内若年教員や学部教員,学生と,共に研究できる場をつくる。
 - ・ホームページ,FB,研究だよりによる広報活動を適時に行う。
 - ・**公立校での活用状況を把握する。**
- ③学部教員との共同研究や科研費申請・採択の推進

2 大学・学部との連携強化

- ①教員養成の核となる教育実習の充実
 - ・学生は教育界の宝である。彼らの志を大切にしつつ、即戦力となるよう、たくましくかつ柔軟な態度を育てる。
- ②特別教育実習の充実(市内公立校との連携の強化)
- ③学生を育てるボランティア活動:インターンシップの事例となるような活動を工夫し、学生に将来役立つ経験をさせたり、協働する喜びを感じさせたりする。

3 附属坂出学園としての一貫した教育

- ①12年間の学習観「主体的に意味を作り出していくプロセス」と連絡進学の価値とエビデンス
- ②幼小連携:交流体験,発達支援と接続について合同研修
- ③小中連携:夢と希望をもつための小中連携(中教員による6年生への話,オープンスクール・CAN等の参観と成果の検証)
- ④特別支援学校との継続交流(4年) ⑤すばるとの継続連携

4 県教委・公立学校への支援

- ①指導助言:坂綾小研,公立校の現職教育等
- ②香小研各教科部会等の研究・運営の推進
- ③坂綾校長会研修会を本校で実施。研究に対する意見交流の場とする。
- ④県内若手教員の研究会への参加依頼

5 豊かな心をはぐくむ体制づくり

- ①あいさつと黙目清掃の日常化
- ②問題状況への迅速な対応(事実確認,報告,謝罪のスピード)
- ③心に寄り添う学級経営の充実(ルールとリレーションの同時確立,「ハイパーQJ」の利用,「先生聞いてカード」の実施)
- ④いいところさがし文化の醸成
- ⑤**養教と特支コーディネーター**が連動した教育相談体制の充実(SC,ケース会の活用)
- ⑥クラブ活動の充実
- ⑦本物に触れあこがれを抱く機会の創出(書道家である校長の指導)
- ⑧海外留学生,学生,坂高生との交流

6 子どもを育てる行事,環境づくり,安全衛生

- ①体育的行事(運動会等),文化的行事(附小フェスタ等)
- ②PTAボランティア隊(読み聞かせ,**家庭科外国語等**学習支援,立哨,OYG,JR親の会等)
- ③**毎週のロング昼休みの有効活用**
- ④登下校の安全確保・マナーの向上
- ⑤防災避難体制の確立
- ⑥居場所づくり(松風園給食,自然の国,バッタメダカランド,ひなたぼっこテラス等)

7 改善に生かす評価,効率的学校運営

- ①成果の見える学校評価(成果と課題を共有したボトムアップの改善策)
- ②目標申告・ヒアリングの実施(年3回)
- ③**仕事とプライベートが相乗効果を及ぼす働き方改革(全体のタイムマネジメントと個のストレスマネジメント,2割の遊び脳活用,変形労働制による長期休業中の学校閉庁,積極的リフレッシュ年休推進運動,サポートスタッフの試行等)**
- ④職員の健康推進
- ⑤経費削減(節水節電,部分的ペーパーレス情報伝達の試行)

* 附属学校改革に関する有識者会議報告書(H29.9)に係る取組を大学,六附属と協議しながら進める。